

第1学年 生活科 学習指導案

福岡市立田隈小学校

遠入 哲司

1 単元名 「たぐまの人となかよくなろう～むかしからつたわるあそびをたのしもう！」

2 単元の目標

- 昔遊びの活動を通して、昔遊びのよさや面白さに気づき、技や遊び方を工夫して楽しみながら遊ぶことができる。
(知識及び技能)
- 昔遊びを教えてくれる校区の方との出会いを通して、自分の生活を支えてくれる人々について考え、感謝の気持ちを伝えることができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- 昔遊びを教えてくれる校区の方々に、学習後も挨拶をするなど、校区の人々に親しみをもちながら生活ができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、内容(3)地域と生活(5)季節の変化と生活(8)生活や出来事の交流との関連を扱った単元である。

本単元では、校区の方が子どもと一緒に遊び、指導ができるという観点から「お手玉」「コマ」「おはじき」「竹とんぼ」「あやとり」「けん玉」「ビー玉」をとりあげる。これらの遊びは、「繰り返して練習することで上達する」「上手に行うコツがある」「友達と一緒にやることでより楽しく遊べる」という共通点をもっている。このため、お互いの遊びを紹介し合ったり、技のコツを教え合ったりする友達同士の交流活動を充実させることができると考える。

また、校区の方と一緒に遊び、コツを教えてくれる GT として活用する。この GT の多くは、登下校中に子ども達の安全を見守ってくださる方であり、登下校中での出会い、再会を通して校区の方をより親しみのある身近な存在として子ども達に気付かせることができると考えている。さらに、これらの方に自分の成長や、感謝の気持ちを伝える方法を考えさせ、実際に気持ちを伝えることで、よりお互いに親しみのある存在として実感させることができると考えている。

(2) 児童観

本学級の児童は、「手話で歌おう」の学習を通して、校区の方から対面で「教えてもらう」経験をしている。また校区の方に親しみをもち、登下校指導をしてきている方に自ら挨拶を行う子ども達も増えてきている。

一方で、子ども達は、既製品や ICT 機器を活用した遊びをすることが多く、遊びの幅は広くはない。

そこで、この時期に、校区の方と一緒に遊んだり、技を覚えてもらったりする昔遊びの交流活動を位置付けることで、子ども達に「一緒に遊ぶ楽しさ」「練習や工夫をして技を向上させる楽しさ」などに気付かせて遊びの幅を広げさせたいと考える。さらに、校区の方とのかわりを通して、自分達の生活に校区の方が関わってくれていることに気づき、校区の方に親しみを覚える子ども達を育てることにつながると思う。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、昔遊びにはどのようなものがあるか知らせ、「お手玉」「コマ」「おはじき」「竹とんぼ」「あやとり」「けん玉」「ビー玉」を紹介する。次に興味があるもので遊ばせ、自分が上手になりたいと思うものを選ばせる。同じ遊びをしたい子ども同士で少人数のチームを作り、GT「あそび名人」との出会いを計画する。

GT との交流においては、体育館を中心に場所を設定し、お互いに自己紹介を行うところからスタートする。この中では、GT から遊びのルールを教えてもらい、GT の技を見せてもらう。担任は GT の技を録画しておき、のちに必要に応じて見返すことができるようにしておく。

遊びを楽しんだ後、次に、他のグループの子ども達とお互いの遊びについて伝えあう全体交流を行うことをしらせる。子ども達はグループごとに、自分が GT と遊んだ遊びについて何をどのように知らせるか考えさせ、言葉や絵、実際の遊びを見せる等の工夫をさせる。全体交流後は、様々な遊びにチャレンジさせる。

学習のまとめとして、お世話になった GT に対して、今の自分の姿について説明し、自分の成長を実感させ、感謝の気持ちを伝える手紙を書き、実際に感謝を伝える活動を行う。最後に、GT と校区の中で出会った際に、進んで挨拶をすることなど、校区の方により親しみを感じることができるよう声掛けを行う。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

連携性…校区の方と一緒に遊んだり、挨拶をしあったりすることは、お互いの心の距離を縮めることにつながる。人とコミュニケーションをはかりつながることは、それぞれにとって心を豊かにする価値があることに気付くこと。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

コミュニケーション力

GT や友達の話の聞いたり、話したりすること。お互いの遊びのコツを伝えあうこと。

つながりを尊重する態度

校区の方に遊びを教わったり、友達と遊びを教え合ったりする中で、様々な人とのつながりにより自分自身が成長したことを自覚すること。感謝の気持ちを伝えること。

他者と協力する態度

登校指導の方に挨拶を行うなど、校区の方に親しみをもって接すること。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

世代を超えて関わり合うことが大切である。

幸福感への気づき

知らないうちに自分自身はたくさんの人に見守られている。

・達成が期待される SDGs

3 全ての人に健康・福祉を

11 住み続けられるまちづくりを

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① 友達や校区の方と一緒に遊ぶことを通して、昔遊びの楽しさ、面白さや地域の人の優しさに気付いている。</p> <p>② 自分ができるようになったことや自分の成長に気付いている。</p>	<p>① 昔遊びについて、校区の方に教えてもらい、上手になるためのコツについて考え、友達に伝えている。</p> <p>② 昔遊びを教えてくれた校区の方のよさについて考え、伝えている。</p>	<p>① 校区の方に親しみをもち、登下校中などに進んで挨拶をすることができる。</p> <p>② 学んだことを家族や友達に、進んで伝えている。</p> <p>③ 学習後も遊び続ける。</p>

5 単元の指導計画(全41時間)

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1. 昔遊びを体験する。</p> <p>(1) おじいさんやおばあさんが子どもの頃はどんな遊びをしていたか発表する。 ・「お手玉」「けん玉」「あやとり」…</p> <p>(2) 「お手玉」「コマ」「おはじき」「竹とんぼ」「あやとり」「けん玉」「ビー玉」の中から自分がやりたい遊びを選び、遊んでみる。</p> <p>(3) もっと上手に、楽しく遊ぶにはどうすればよいか考える。 ・上手な人がやるところを見てみたい。 ・誰かに教えてもらいたい</p>	<p>○「お手玉」「コマ」「おはじき」「竹とんぼ」「あやとり」「けん玉」「ビー玉」の実物を用意しておく。</p> <p>○遊び方が分からない子には、遊び方の動画を用意しておく。</p>	<p>ア① (知)</p>
<p>2 校区の方(あそび名人)と昔遊びをする。</p> <p>(1) グループごとに名人と遊ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>①初めの挨拶・自己紹介 ②名人からのお手本 ③自分で挑戦 ④名人からのアドバイス ⑤名人と一緒に遊ぶ ⑥終わりの挨拶</p> </div> <p>(2) 名人と遊んだ感想について交流する ・名人は上手だった。 ・名人と遊べてうれしかった。 ・名人みたいに上手になりたい</p>	<p>○子ども達がやりたい遊びと名人の人数などをもとに、子ども達をグループに分ける。</p> <p>○子ども達には、どうすれば「上手にできるか」「楽しく遊べるか」について見つけるように指示しておく。</p> <p>○グループごとに遊びの状況を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>・上手に遊んでいる子ども ・仲良く遊んでいる子ども ・友達への声掛けを上手な子どもには、賞賛の声掛けを行う。 ・うまくいかない子ども ・一人で遊んでいる子どもには、アドバイスや励ましの声掛けを行う。</p> </div>	<p>ア① (知技)</p> <p>イ① (思判表)</p>

<p>3. 昔遊び発表会を行う。</p> <p>(1) それぞれが遊んだ遊びについて、遊び方やコツをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵やイラストを使って ・言葉で ・上手にできている場面を動画で <p>(2) 違う遊びをした子ども同士でグループを作り、お互いの遊びを発表し合う。</p> <p>(3) 友達から教えてもらった遊びをやってみる。</p> <p>(4) 遊び発表会の感想を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇の遊びも面白いね。 ・〇〇の遊びも上手になりたいな。 ・学習が終わっても遊びたいね。 	<p>○書き方のフォームを用意しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>私は〇〇をしました。〇〇の遊び方は… こうすると楽しく遊べます。 こうすると上手になると名人から教えてもらいました。みなさんもやってみてください。</p> </div> <p>○友達から教えてもらった遊びをしている子ども達に感想を尋ねることで発表しやすくなるように促す。</p>	<p>イ① (思判表)</p> <p>ア① (知技)</p> <p>ウ② (主)</p> <p>ア② (知技)</p> <p>ウ③ (主)</p>
<p>4. 学習を振り返る</p> <p>(1) 学習を通して自分ができるようになったことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇が上手にできるようになった。 ・〇〇で友達と仲良く遊べるようになった。 ・遊び方を上手に説明できた。 ・たくさんの遊びができるようになった。 <p>(2) 自分ができるようになった理由を考えさせ、名人への感謝の仕方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お手紙を書こう。 ・もう一度学校に来てもらって上手になったところを見せたい。 ・「ありがとうございます」と言葉で伝えたい。 <p>(3) 手紙を書く。</p>	<p>○学習を通して自分ができるようになったことを考えさせることで、自分自身の成長に気付くことができるようにする。</p> <p>○感謝を表す手紙を書くことを知らせる。 ※上手になった姿やお礼のあいさつを動画にしておき、後から見せることもできる。</p> <p>○校区の方への親しみがわき、挨拶などを進めする子どもを育てるために、後日、手紙を渡した後の名人たちからの挨拶や言葉を集め、子どもに伝える。</p>	<p>ア② (知技)</p> <p>イ② (思判表)</p> <p>ウ①③ (主)</p>

6. 指導の実際

【第1次】

昨年度の1年生(現2年生)は、コロナ感染拡大の影響で、校区の方から昔遊びを教えていただく活動ができなかった。そこで、本年度、校区の方をお願いして12月に今の2年生に対して昔遊びを教えていただくようお願いし、交流会を行った。本年度の1年生の学習の導入にあたっては、まず、校区の方から遊びを教えてもらった2年生が1年生に遊びを紹介することから始めた。むかし遊びに興味をもった1年生は、自分がやりたい遊び、上手になりたい遊びを決めて、交流会にのぞむことができた。

【第2次】

コロナウイルス感染防止による学級閉鎖が重なり、一時は開催が危ぶまれたが、校区の方の願いもあり、1週間遅れて昔遊び交流会を行うことができた。本来は学級ごとに教わる予定であったが、時間の関係上、学年合同、学年を分割して交流会を行うことになった。



①交流会の様子



②グループごとに自己紹介



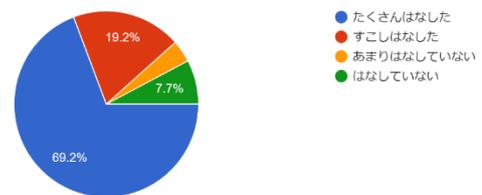
③端末で名人を録画する子ども

この学習が終了した後も、校区の人々に親しみをもって生活することが目標の一つでもあることから、交流会においては、グループの中で自己紹介をしあい、お互いの名前を確認することからから交流会を開始した。最初は、戸惑っていた子ども達もいたが、校区の方から声をかけられたり、尋ねられたりする中で、徐々に会話が増えていった。また、優しく指導をしていただくことを通して、遊びに没入する子ども達の姿が見られるようになった。この遊びのあとに お互いの遊びを紹介し合うことを意識した子ども達の中には、1人1台端末を使用して動画で名人のお手本を録画する子どもも見られた。

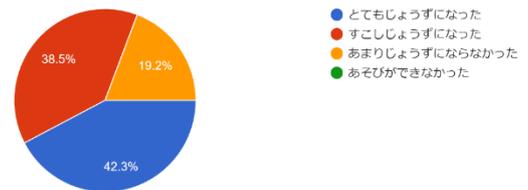
学習後に子ども達にアンケートをとった結果、参加したすべての子ども達が交流会を楽しかったと回答した。交流会を通して、遊びが「あまり上手にならなかった」と答えた子どもが約20%いたにも関わらず、交流会自体が楽しかったと回答した子どもが多かった背景には、「校区の方とお話できたこと」そのものが楽しかったと考えていることが考えられる。

一方で、地域の方にもアンケートを行ったところ、参加した校区の方全員に、「交流会が楽しかった」と回答していただいた。具体的な感想としては、「楽しい30分間でした。元気をもらいました。ありがとうございました。」「元気な子ども達にエネルギーをもらいました。子ども達の上達の速さにびっくりしました。」「できなくても頑張る姿がいっぱい見て気持ちよかったです。」などが寄せられた。また、参加された全員が「来年もぜひ参加したい」と回答していただくことができ、この交流会が、子どもだけではなく、地域の方にとっても価値がある事が明らかになった。

2. ごくくのせんせいと、たくさんおはなしができましたか？
26件の回答



3. あそびがじょうずになりましたか？
26件の回答



【第3次】

交流会を終えた子どもは、自分が教わった遊びがもっと上手になるように練習を続けた。交流会の時に撮影した校区の方の動画を視聴し、コツを確認しようとする姿も見られた。この後、遊びグループをいくつかに分け、自分達が教わった遊びを発表し合い、お互いの遊びをやってみる学習（昔遊び発表会）を行った。自分の教わった遊びだけでなく、互いに楽しく遊びを教え合い、交流する姿が見られた。



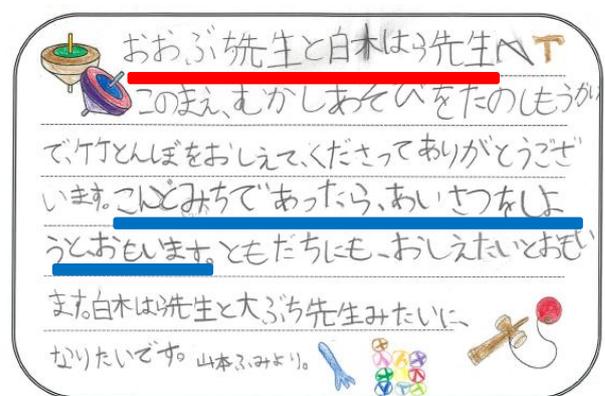
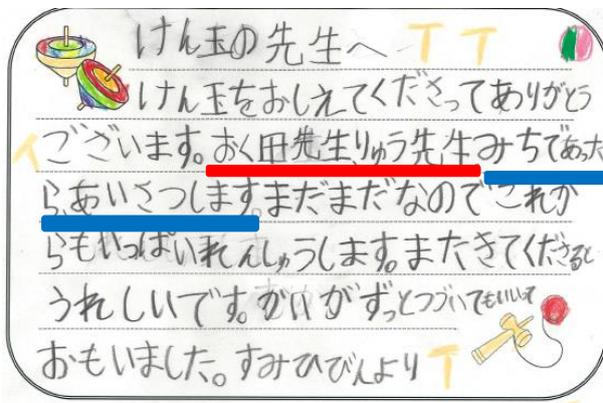
動画で遊びのコツを確認する子ども



グループで遊びを練習する子ども

【第4次】

学習の振り返りで、お世話になった先生方から「楽しかったよ」「また来たいとおっしゃっているよ」ということを子ども達に知らせた後に、手紙を書く活動を行った。手紙の中に校区の中に名前を入れている子どもが25名中22名おり、「田隈の人と仲良くなる」という目標に近づけていると考えている。また、登下校中などに出あったら挨拶をしたいと書いている子が5名おり、学習後も校区の方とかかわろうとする姿も見られた。



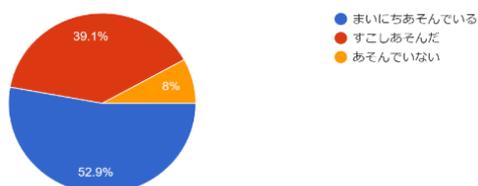
7・成果と課題

【成果】

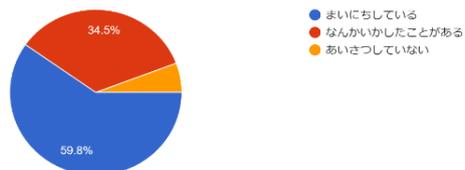
①生活科の目標から

学習後のアンケートによると、「交流会後も1年生全体の92%が昔遊びを続けていること」「94.3%の子どもが交流会後に校区の方に挨拶をしていること」「77%が友達に遊び方を教え、一緒に遊んでいること」が分かった。このことから、単元の目標である「昔遊びの活動を通して、昔遊びのよさや面白さに気づき、技や遊び方を工夫して楽しみながら遊ぶことができる」「昔遊びを教えてくれる校区の方との出会いを通して、自分の生活を支えてくれる人々について考え、感謝の気持ちを伝えることができる」「昔遊びを教えてくれた校区の方々に、学習後も挨拶をするなど、校区の人々に親しみを持ちながら生活ができる」についてほぼ達成できたと考える。

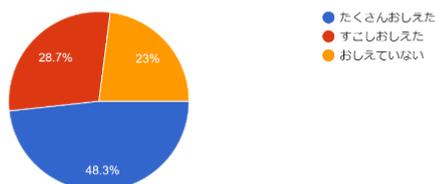
1. ころりゆうかいでおしえてもらった「むかしあそび」であそんでいますか？
87件の回答



2. 「むかしあそび」をおしえてもらった、ころくのかたに、あいさつをしましたか？
87件の回答



3. じぶんがおしえてもらった「むかしあそび」のあそびかたを、ともだちにおしえましたか？
87件の回答



②ESD の視点から

この学習では、ESD の視点として「連携性」を位置付けているが、感想の中に「また一緒に遊びたい」「上手になったところを見てほしい」「姿を見かけたら挨拶をしたい」など、「これからも一緒に活動したい」、「校区の人と関わり続けたいと考える子どもが育っていることが分かった。

また、校区の方の感想でも「今後も子ども達や学校とつながってきたい」という内容が多くみられたことから、子ども達にとっても校区の方にとっても、お互いの関係性を強めるきっかけになっていることが考えられる。さらに、感想の中に、「地域の活動に役立つことを喜びとします。子ども達が私たちの名前をよく覚えています。今後もよろしくお願いします。」という感想からは、学習後も子ども達が校区の方の名前を呼び、関わりを深めていることが分かり、「連携性」の点で効果のある学習であったと考えている。

【課題】

生活科の学習としては、概ね目標を達成することができており、学習内容や指導方法などについては、今後も本校で継続して取り組んでいくことができる単元をつくることができたと考えている。この1年生の実践により、本校における田隈小学校校区の「人・もの・こと」を中心にしてSDGsの目標達成を目指す『田隈小版ESD』のカリキュラムはほぼ完成した。このカリキュラムについては、令和4年度の学校評価においても、学校サポーターから高い評価を受ける事ができた。

一方で、従来のカリキュラムでは、この単元は1月に「正月遊び」などとの関連で冬場を実施するため、ここ数年は交流会が新型コロナウイルス感染拡大に伴う延期、中止になることが多かった。本年度も学級閉鎖により、実施時期を延期することになった。また校区の方の感想によると、「寒い」という回答が多く、実施時期について検討する必要がある。校区の人々をGTとして活用して学習を行うと、学年間の時期的な重なりが出てくるため、再度、各学年の内容を検討し、学校全体として、より効果的なカリキュラム作りをおこなう必要がある。